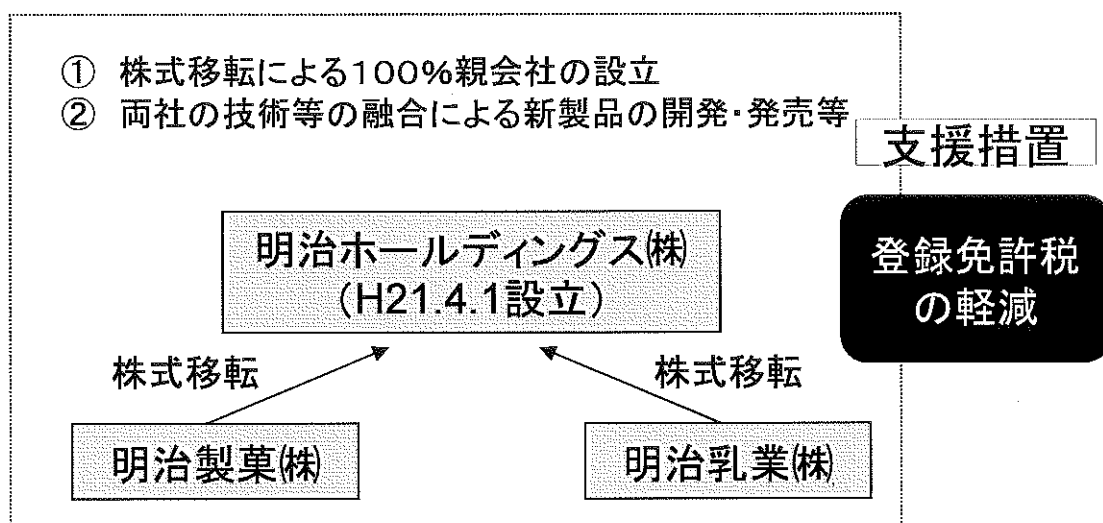


平成21年3月23日

明治製菓株式会社及び明治乳業株式会社の事業再構築計画のポイント

明治製菓株式会社及び明治乳業株式会社は、株式移転の方法により、平成21年4月1日付けで両社の完全親会社となる共同持株会社「明治ホールディングス株式会社」を設立し、共同持株会社が両社の株式を100%保有することとなる経営統合を図ります。

これまで両社がそれぞれ築いてきた開発・製造技術、販売体制、物流システム等の相互利用等を図ることにより、事業活動の効率化、経営基盤の強化、顧客ニーズへの対応力の強化等を実現し、グループ全体としての生産性の向上を図ります。



【生産性の向上】

・ROE(自己資本当期純利益率)を2.5%ポイント向上させる。

【財務内容の健全性】

- ・有利子負債／キャッシュフロー 10倍以内
- ・経常収支比率 100%以上

【事業革新】

明治製菓の保有する菓子の商品開発力、知名度と明治乳業の保有する乳に関わる技術力、素材、チルド物流網等を融合することにより、これまでにない新機軸のデザート等新製品の開発等を行い、平成23年度には新製品の売上高を全売上高の1.67%以上とすることを目的とする。

【従業員の推移】

- ・8,194名→8,502名(308名増)(新規採用1,309名)
 - ・出向37名、転籍0名
- (全てグループ内の出向であり、解雇の予定はない。)

【計画の実施期間】

- ・平成21年4月～平成24年3月

認定事業再構築計画の内容の公表

1. 認定した年月日

平成21年3月23日

2. 認定事業者名

明治製菓株式会社、明治乳業株式会社

3. 認定事業再構築計画の目標

(1) 認定事業再構築計画に係る事業の目標

明治製菓(株)と明治乳業(株)はともに明治製糖株式会社を起源とし、明治製菓(株)は主に菓子、医薬品において、明治乳業(株)は主に牛乳、乳製品において、それぞれ事業運営を行ってきた。両社のおかれた事業環境は、日本国内の少子高齢化や人口減少による総需要の伸び悩み、新興国の成長による食物の高騰、異業種からの食品、健康分野への参入による競争激化など厳しさを増す一途である。

経営環境が厳しさを増す状況下において、明治製菓(株)はチョコレートやガムを中心とする菓子事業分野やスポーツ、美容を切り口とする健康栄養の分野において売上高を伸ばしており、明治乳業(株)は牛乳、乳製品を事業の核とし、成長分野としてスポーツ、介護食、高齢者食品を切り口とする健康栄養に経営資源を振り向け事業化に取り組んできた。

このような事業環境下であり、多様化する顧客ニーズに応え、競争力のある事業運営を続けていくためには、両社は経営を統合することが最善の選択であると判断し、今般の共同株式移転による経営統合の合意に達した。この経営統合により、両社は製造その他のコスト削減はもとより、安全、安心を第一とし、顧客ニーズに対応した商品を提供することで企業価値の向上を目指すこととする。

(2) 生産性の向上を示す数値目標

生産性の向上としては、平成23年度には平成19年度に比べて、自己資本当期純利益率を2.5%ポイント向上させることを目標とする。

4. 認定事業再構築計画の内容

(1) 認定事業再構築計画に係る事業の内容

①中核的事業

製菓事業

乳製品事業

健康栄養事業

冷凍食品事業

②選定理由

明治製菓(株)、明治乳業(株)両社は大正時代の創業より食品の製造、販売を行っており、食に関する数多くの技術、知見等の経営資源を保有し、明治製菓(株)は製菓事業において、明治乳業(株)は牛乳、乳製品事業において日本国内のリーディングカンパニーである。また、両社が長年育んできた共通のブランドである「明治」は広く顧客に浸透し、強い支持と信頼を得ている。今回の事業再構築により、製菓事業、乳製品事業、健康栄養事業、冷凍食品事業において、両社が保有する技術や素材を相互活用することで新たな需要と価値を生み出すことができ、既存事業の一層の強化と新たな市場の開拓が可能であるため、当該事業分野を中核事業と位置付けた。

③事業再構築に係る事業の内容

明治製菓(株)、明治乳業(株)は共同持株会社である明治ホールディングス株式会社を設立することで両社の経営を統合し、全体最適による投資や事業活動の効率化、顧客ニーズへの対応力強化、新たな需要の創造を図り、企業価値向上の実現と持続的成長の経営基盤を確立する。なお、明治ホールディングス(株)は純粋持株会社として「経営企画機能」「経理財務機能」「人事総務機能」「IR広報機能」「業務監査機能」に特化し、グループ価値の更なる向上を目指す。

(事業の構造の変更：株式移転による持株会社設立)

<株式移転により設立される完全親会社>

名称：明治ホールディングス株式会社

住所：東京都中央区京橋2丁目4番16号

代表者：代表取締役社長 佐藤 尚忠

代表取締役副社長 浅野 茂太郎

資本金：30,000 百万円

設立日：平成21年4月1日(予定)

<株式移転を行い、完全子会社となる会社>

名称：明治製菓株式会社

住所：東京都中央区京橋2丁目4番16号

代表者：代表取締役社長 佐藤 尚忠

資本金：28,363 百万円

名称：明治乳業株式会社

住所：東京都江東区新砂1丁目2番10号

代表者：代表取締役社長 浅野 茂太郎

資本金：33,646 百万円

株式移転比率：明治製菓：明治乳業=0.1：0.117

株式移転効力発生日：平成 21 年 4 月 1 日（予定）

（事業革新）

＜製菓事業＞

明治製菓㈱の強みであるチョコレート、ガム、キャンデーなど多岐にわたる菓子の商品開発力、知名度に加え、明治乳業㈱の強みである乳に関わる技術力、素材を活かし、新たな価値と需要を創造する。具体的には、明治乳業㈱の保有する乳素材、チーズ素材や乳酸菌を活用した新機軸、新機能の高付加価値商品を発売し、新たな需要を開拓する。

＜乳製品事業＞

明治乳業㈱はアイスクリーム事業において、乳素材を中心に、素材のおいしさを引き出すことを強みとした商品展開を行っている。明治乳業㈱の素材を活かす技術を基盤に、明治製菓㈱が有する菓子製造技術や菓子素材と融合させることにより、新たな機軸のアイスクリームを開発し、需要を開拓する。

また、デザート事業においても、明治乳業㈱が持つ乳素材のおいしさを強みとした商品展開に加え、明治製菓㈱が持つチョコレートの素材を組合せたチルド商品を開発する。

＜健康・栄養事業＞

明治製菓㈱の持つ機能性食品の素材を活かし、明治乳業㈱の保有する乳製品加工技術やチルド物流網を活用し、健康や美容をテーマとした機能性商品を開発する。

＜冷凍食品事業＞

明治製菓㈱のレトルト食品で培った技術、レシピ、認知度を活かし、明治乳業㈱の持つ冷凍食品の技術を基盤に、個食など食シーンに対するニーズの多様化に応える新商品を開発する。

以上の取り組みにより、平成 23 年度において当該分野での新商品の売上高を全売上高の 1.67%以上とすることを目標とする。

（その他の取り組み）

明治ホールディングス㈱においては、明治製菓㈱、明治乳業㈱の経営資源を最適配分し、グループ全体の収益向上を図るための経営計画を立案、実行するとともに、明治製菓㈱、明治乳業㈱の業務遂行を管理する。

（2）事業再構築を行う場所の住所

東京都中央区京橋 2 丁目 4 番 16 号
明治ホールディングス株式会社

東京都中央区京橋 2 丁目 4 番 16 号
明治製菓株式会社

東京都江東区新砂 1 丁目 2 番 10 号
明治乳業株式会社

(3) 関係事業者

該当なし

(4) 事業再構築を実施するための措置の内容

別表 1 のとおり

(5) 事業再構築の開始時期及び終了時期

開始時期：平成 21 年 4 月

終了時期：平成 24 年 3 月

(6) 事業再構築に伴う労務に関する事項

① 構築の開始時期の従業員数（平成 21 年 1 月末日時点）

明治製菓株式会社	3,774 名
明治乳業株式会社	4,420 名
合計	8,194 名

② 事業再構築の終了時期の従業員数（平成 24 年 3 月末時点見込）

明治ホールディングス株式会社	37 名
明治製菓株式会社	4,014 名
明治乳業株式会社	4,451 名
合計	8,502 名

③ 事業再構築に充てる予定の従業員数

明治ホールディングス株式会社	37 名
明治製菓株式会社	4,014 名
明治乳業株式会社	4,451 名
合計	8,502 名

④ ③中、新規に採用される従業員数

明治ホールディングス株式会社	0 名
明治製菓株式会社	667 名
明治乳業株式会社	642 名
合計	1,309 名

⑤ 事業再構築に伴い出向または解雇される従業員数

出向予定人員数	合計	37名
転籍予定人員数	合計	0名
解雇予定人員数	合計	0名
合計		37名

(7) その他
該当なし

別表 1

事業再構築の措置の内容

措置事項	実施する措置の内容及びその実施する時期	期待する支援措置
事業の構造の変更		
株式移転による中核的事業の開始、拡大又は能率の向上	<p>株式移転による持株会社設立 <株式移転により設立される完全親会社> 名 称：明治ホールディングス株式会社 住 所：東京都中央区京橋 2 丁目 4 番 16 号 代表者：代表取締役社長 佐藤 尚忠 代表取締役副社長 浅野 茂太郎 資本金：30,000 百万円 設立日：平成 21 年 4 月 1 日（予定）</p> <p><株式移転を行い、完全子会社となる会社> 名 称：明治製菓株式会社 住 所：東京都中央区京橋 2 丁目 4 番 16 号 代表者：代表取締役社長 佐藤 尚忠 資本金：28,363 百万円</p> <p>名 称：明治乳業株式会社 住 所：東京都江東区新砂 1 丁目 2 番 10 号 代表者：代表取締役社長 浅野 茂太郎 資本金：33,646 百万円</p> <p>株式移転比率：明治製菓：明治乳業＝0.1：0.117 株式移転効力発生日：平成 21 年 4 月 1 日（予定）</p>	租税特別措置法第 80 条第 1 項第 1 号（認定事業再構築計画等に基づき行う登記の税率の軽減）
事業革新		
第 2 条第 2 項第 2 号イ	<p><製菓事業> 明治製菓㈱の強みであるチョコレート、ガム、キャンデーなど多岐にわたる菓子の商品開発力、知名度に加え、明治乳業㈱の強みである乳に関わる技術力、素材を活かし、新たな価値と需要を創造する。具体的には、明治乳業㈱の保有する乳素材、チーズ素材や乳酸菌を活用した新機軸、新機能の高付加価値商品を発売し、新たな需要を開拓する。</p> <p><乳製品事業> 明治乳業㈱はアイスクリーム事業において、乳素材を中心に、素材のおいしさを引き出すことを強みとした商品展開を行っている。明治乳業㈱の素材を活かす技術を基盤に、明治製菓㈱が有する菓子製造技術や菓子素材と融合させることにより、新たな機軸のアイスクリームを開発し、需要を開拓する。</p> <p>また、デザート事業においても、明治乳業㈱が持つ乳素材のおいしさを強みとした商品展開に加え、明治製菓㈱が持つチョコレートの素材を組合せたチルド商品を開発する。</p> <p><健康栄養事業> 明治製菓㈱の持つ機能性食品の素材を活かし、明治乳業㈱の保有する乳製品加工技術やチルド物流網を活用し、健康や美容をテーマとした機能性商品を開発する。</p> <p><冷凍食品事業></p>	

	<p>明治製菓㈱のレトルト食品で培った技術、レシピ、認知度を活かし、明治乳業㈱の持つ冷凍食品の技術を基盤に、個食など食シーンに対するニーズの多様化に応える新商品を開発する。</p> <p>以上の取り組みにより、平成 23 年度において当該分野での新商品の売上高を全売上高の 1.67%以上とすることを目標とする。</p>	
--	--	--